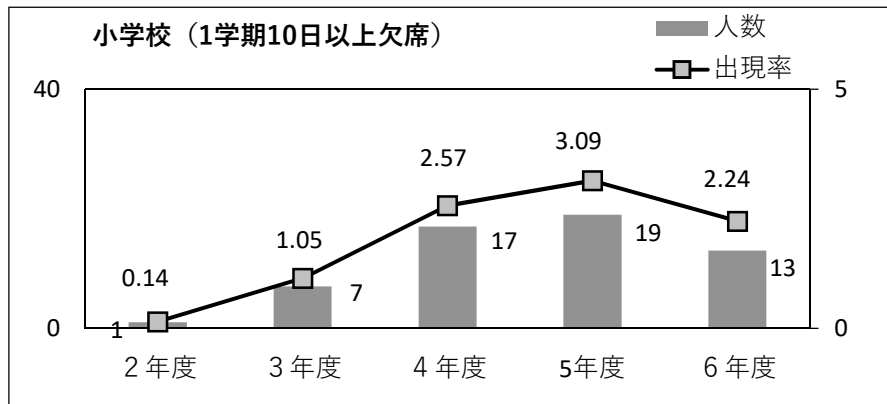


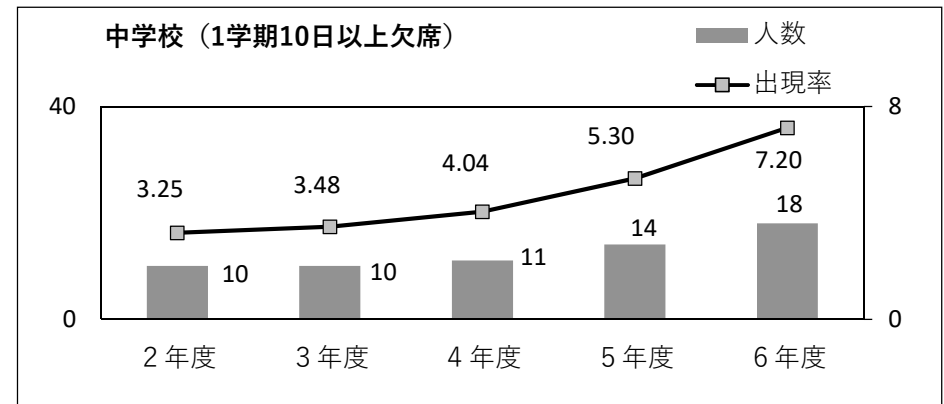
子どもの新たな居場所づくりに向けて

長期欠席児童生徒（病気・不登校・その他）の状況と課題



●小学校：13名（低学年2名・中学年4名・高学年7名）※新規不登校2名

出現率が3%を下回ったものの厳しい状況



●中学校：18名（1年生3名・2年生10名・3年生5名）※新規不登校1名

出現率が7%を超え、重大な課題→社会的自立に向けた取組が重要

【不登校の要因】

子ども同士や大人との人間関係を築けない、学習の未定着や生活リズムの不調による精神的な不安、親子の関わり方等と考えられる。

【課題】

- 各学校及び学院での分析と効果ある対策について組織的な対応が求められる。
- 学校内外で豊かな学びの場の確保。
- 豊かな学びの場をいかに確保していくか。
- 民間施設や専門家等との連携。

一方で、小学校における教育相談体制や指導体制の再構築、中学校における校内教育支援センター（居場所）の開設など、新規の取組に一定の効果が見られた。

子どもの新たな居場所づくりに向けて

適応指導教室「こころのひろば」

- 1 開設年度 平成10年度
- 2 開設場所 学習の家（宮津市島崎）
- 3 開設時間 月～金 9:00～15:30
- 4 対象児童 不登校傾向にある市内在住の小中学生
- 5 支援内容 自然体験・社会活動・教科指導等を通して、児童生徒の学校復帰に向けた支援を行う
- 6 スタッフ 5名

◆利用者 R4：14名(児童生徒10名＋卒業生4名)
R5：11名(児童生徒6名＋卒業生5名)

【課題】

- 保護者の送迎が必要となり、遠方からの通室生が利用しづらいケースがある。
- 放課後以降の時間帯の居場所が確保されていない。

●今後の取組・方向性

○小学校の不登校児童のうち、低中学年の児童が約半数を占めていることから、人間関係の構築や精神的な不安解消を図るためにも、日中に小学校内で学習や活動ができる居場所を確保。

○放課後から夜間の時間帯を中心に、学校間・校種間（小中学校）を問わず、貧困・不登校・虐待など家庭環境・学習環境等に様々な課題がある児童生徒が学習・食事・入浴等の活動を通して、生活習慣・学習習慣を身に付けて将来の自立につながる居場所を確保。

○児童生徒が新たな居場所を利用するための送迎対応。

○専門のスタッフによる様々な課題を抱える児童生徒及び保護者への支援。

○教育・福祉分野の垣根を超えた横断的な連携強化。

宮津中学校校内フリースクール

- 1 開設年度 令和5年度(整備)・令和6年度開設
- 2 開設場所 宮津中学校 教室棟1階
- 3 開設時間 月～金 8:45～15:20
- 4 対象児童 宮津中学校に在籍する不登校や教室に入りにくい生徒
- 5 支援内容 生徒が安心して学校生活が送れるようゲームや学習支援等を実施
- 6 スタッフ 5名

◆利用者10名：R5(1学期)欠席224日→R6(1学期)欠席203日【対前年比△21日】
この10名のうち8名は安定した登校に結びつき、少しずつ教室の授業にも入っている

【課題】

- 校内フリースクールは対象学校のみの子どもの利用に限定されているため、他校や小学校の利用ができない。
- 放課後以降の時間帯の居場所が確保されていない。